

白山ふるさと文学賞

第十三回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」または「家族へのおもい」〉

小学生1・2年の部 最優秀賞

「おとうとのたんじょうびケーキ」

松任小学校一年 八田<sup>はった</sup>真凛<sup>まりん</sup>

きんようびはおとうとの1さいのたんじょうび。カレンダーにハートをかいてずっとたのしみにしていた。わたしはだいすきなおとうとのためにおねえちゃんといっしょにたんじょうびのケーキをつくることにきめた。

おかあさんといっしょにいつものスーパへ行って、バナナとパンとヨーグルトをかった。いつものブロッコリーやさんでぶどうもかった。

「はやくつくりたいなあ、どんなのにしようかなあ。」ってわくわくしていそいそおうちにかえった。

てをあらってからパンをほうちようできった。まるくきりたかったけど2まいともおなじまるにきれなくてくやしかった。だけど、

「ぜったいまるくきるぞ。」っておもってがんばってきった。

ヨーグルトをきったパンにぬった。ふんわりとろとろやわらかくてぬるのがおもしろかった。

ぶどうのかわはしゆるしゆるむけた。おいしそうだったからちよつとだけあじみをした。あまいあまいぶどうでこれなら、

「ぜったいまくつくれそう。」っておもった。

おねえちゃんはバナナのかわをむいてほうちようできった。ちいさいのやおおきいの、いろんなおおきさにきっていてシェフみたいでかつこよかった。

おとうとがうれしいきもちになるといいなあってかんがえてぶどうとバナナはかおのかたちにならべてもりつけをした。

しあげにわたしが「1さいおめでとう」ってはたにかいた。それをおねえちゃんといっしょにケーキにたててとうとうケーキがかんせいした。

よろこんでくれるかなあ、たべてくれるかなあってわくわくしてそおつとおとうとにみせた。おとうとはてをばちばちしてにこにこよろこんでくれた。

がんばってつくったケーキをみんなでうたをうたってからたべた。ちよつとすっぱいヨーグルトとあまいぶどうとバナナはいっしょにたべるとさいこうにおいしかった。おとうともいっっぱいおかわりしてくれた。

おねえちゃんとちからをあわせておとうとのためにケーキをつくれてよかった。ケーキがかんせいしてかぞくみんなにこにこえがおだったからすぐうれしいおとうとのたんじょうびになった。おとうとが2さいになるときだってがんばっておねえちゃんといっしょにたんじょうびケーキをつくりたいな。

